

刊夕e十二月十



定価一冊を五ヶ月分金に換算 郵費五厘  
 廣告料五字一十行一五五字  
 日曜祭日の翌日休刊  
 印刷所 常盤毎日新聞株式会社  
 印刷所 常盤毎日新聞株式会社

### 小賣商店の新らしき脅威 (三)

(消費組合と購買組合の競争)

3・T・Y 生

#### 家庭購買組合

消費組合事業の實際的概略を知るために茲に一二の消費組合の状況を略記する

東京の家庭購買組合は前掲の如く賣上高も多しが内容に於ても模範的の組合と見られてゐる組合で、大正八年十二月の設立組合員六千五百五十五名、一ヶ年の購買高百萬圓で販賣品目は米雜穀、醬油、味噌、菓子、清涼飲料水、砂糖、パン、罐詰類、海苔、卵、牛肉、調味料、茶、コーヒー、紙類、電球、化粧品、學用品、綿メリヤス、足袋、靴及沓下、荒物、雜貨、食油、燃料油、木炭、石炭、鮮魚、肉類、野菜、果物等を主にクリーニングもやる。

本郷の本部の外に本郷、淀橋、杉並、砧村、澁谷、大森、品川等に支部ストア一を設け、高田町に精米部及び倉庫を澁谷に製靴部を設けてゐる、仕入は問屋或は製造業者からで全購聯からの購入は燐寸其他殆ど少數である、之は全購聯の商品は地方向で都會人には向かないからである、米は全購聯から購入し精米部に於

て白米にして組合員に配給する仕拂は二十日締切の翌月五日拂で仕入に従事する者は鮮魚、肉類等専門的技術を要するものは専門家を雇ひ、雜貨等は組合で養成した人々が之に當る販賣は本部或は支部から毎朝御用聞きに廻り配達は當日或は翌日中にする、賣掛代金は毎月二十四日締切の月末拂ひである組合員は多く知識階級の中流處であつて賣掛金の固定する額は殆ど少い商品の賣れる率は米二五%野菜肉類等二五%其他雜貨五〇%である毎月末から翌月五日迄の間に十圓の購買

【朝】みそ汁——とうふ  
 【晝】ほうろくむし——松茸  
 はせ 小えび おろし  
 肉ぎんなん 面とり  
 栗  
 【晚】わん——夫婦とうふ  
 薄くずわさび

【晚】わん——夫婦とうふ  
 薄くずわさび

#### ノート

食器の消毒は水一升に晒粉一匁位を入れ其水で洗ふのが最も手軽な方法但し十分ほど浸けてからのこと

券を九圓八十五錢に割引して發行し次の月の支拂に之を當てしむるなどの新戦術を行つてゐる、組合員一人當りの購買額一ヶ月三百圓に達するものもあるが二十圓から七八十圓處が一番多い、相互懇親の機關として

る一つは東京府消費組合聯合會一つは關東消費組合聯合會である何れも加盟組合の統制機關で主に共同仕入を行つてゐる。

加盟組合は産業組合法による購買組合と成つてゐる東京府消費聯合會は過組分裂して組合数が少くなつた、加盟組合の外に取引組合と云ふのがあつたは聯合會に向つては出資して居らないが現金買入を原則として臨時商品の取引をする組合である。

取扱商品は米、味噌其他の日用品で米と其他のものが半々、一ヶ年の販賣高十七八萬圓である。消費組合の中には左翼色彩を持つもの右翼的色彩を持つもの中間を行くものなどあるが思想的には無關心のものもある。

又學生だけの消費組合や役所の人々の消費組合など特別の組合もある、一工場の労働志を以つて組織し勞資協調の意味から會社の補助を仰でゐる組合もある。

十月廿一日庚申一白大安開【一】白營業上奔走を起る日金談の爲目上と意見衝突を起す勿れ未申丑寅凶【二】黒家内病人あるか親戚にあれば萬事に注意【三】碧我希望の爲め奔走して目上と意見衝突を起す勿れ戌亥と辰己凶【四】綠望事の爲め奔走して人に煽動され階段から

落を怪俄する勿れ東西凶【五】病氣怪俄纏れ混雜の起る凶日なれば萬事に注意未申丑寅凶【六】營業上部下に心配の起る事あれば月一回は部下を集め訓辭す可し南北凶【七】赤吉が凶に醸すことあれば官所の件に注意南北凶【八】病氣怪俄紛失盜難に注意の日未申丑寅凶【九】金談縁談望事皆進んで大利を得るの大吉日なり東西凶

小學生用(長ズボン付)  
 A ..... 90  
 B ..... 1.10  
 特製 ..... 2.50  
 中學生用  
 特製 6號 ..... 3.50  
 御注文(特上) ..... 6.50  
 ぶかや洋服店 平電 203

黒小倉通學服賣出  
 冬服の御用意をなさいましたか  
 弊店は御満足の頂ける黒小倉服を  
 澤山取揃へ特價にてお務めてお  
 ります

耳鼻咽喉科専門  
 大和田醫院  
 平町南七  
 電一〇七

吸入用酸素素純度99%  
 体温計  
 寒暖計  
 重量度  
 モノサシ  
 マス  
 ハカリ  
 秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局  
 電話四〇番  
 寫真材料一式販賣致シマス  
 質物一般  
 夜九時迄出し入れ致します

毛糸  
 今年度新色全部揃へました。  
 何卒御来店下さい.....  
 合名 三井質店  
 會社 ハシモトヤ糸店  
 平・田町 電十四番  
 平四(電話六〇六番)

外科  
 門專光X  
 科線  
 上田外科醫院  
 平町南町  
 電話一二九番

# 貧の恵み

## 五月間に七百圓

### 警中退學

増前年より

平町役場で本年四月より九月迄に市内に於ける貧困者として救済した人員總數は十一名で此の費用は六百九十七圓十一錢に達して居るがその内生活扶助を行つたのが八十二名、此金額五百四十四圓七十一錢、醫療費を支給したのは七名此金額百四十二圓四十錢、埋葬費支給は二名で十圓である

# 大漁なのに

## 秋刀魚が食へぬ

東京や中通りに續々輸送

小名濱及び江名濱等の漁濱には秋刀魚船が續々入港して居るが水揚げした秋刀魚はその大半が東京及び中通り方面に輸送されるので此處三四日大漁続きでありながら平町市場には入荷少なく

# 資金造成に

## 軍事映畫大會

平町在郷軍人分會では来る二十八日午後六時半より聚樂館に於て非常時局資金造成の爲め軍事映畫大會を催すが當日上映する映畫は「滿洲事變」四巻「心の燈火」十巻「動物オリムピック」一巻等で其他名篇數巻がある

しく演じられて小さなお客様方は大満足、殊に特別出演の川崎本社長の童話に依つて充分に御機嫌を取り結び午後九時頃目出度く散會した因に同一行は本日市内各小學校を巡回演じた

公民科を視察 文部省原視學委員は来る十一月六日午前十一時十分着にて來平警中及び磐女に於ける公民科を視察して平發十一時十八分にて双葉郡に向ふ

# 柿の東京移出が

## 昨年の三分の一

廿四日頃第一回の出荷

本年は收獲減少

石城郡農會では来る廿四五日頃平窪、小川兩村産出の柿を東京市場に移出するが氣候の關係で收獲が減少して居るので昨年三十車一萬箱を移出したものが本年は十車三千四百箱であらう

磐女校長出縣 磐女校長正木貞二郎氏は近く開催される東北中等學校長會議の提出問題協議の爲め昨日平發午前五時四十分にて出縣した

# 救護法の事務指導

廿五日に団体事務所で

本縣主催の本郡下に於ける救護法事務指導協議會は来る廿五日午前十時より平町団体事務所樓上に開かれるが指導事項左の如くである  
一、児童虐待防止法に関する件  
一、救護法に關する件  
一、軍事救護法に關する件

# 新築階上に美術展

美友會主催で第三校に

郡内洋畫研究者より成る美友會主催の第十五回美術展覧會は既報の如く来る二十

する事になつて居る因に會員の氏名左の如くである  
(平町)近藤廣記、酒井英吉、柴田善登、高瀬勝男、大和田祐之、海野磐男、長谷長榮、菱沼儀、齊藤利彦(内郷)青山勤(大野)遠藤正三(四倉)助川光雄

辯論演題決定 既報來る二十九日福島高商主催の下に同校講堂で開催される關東北北海道中等學校辯論大會に出演する警中の眞木、平商の山家兩君の演題は左の如く決定した  
『日章旗の下に眞木林平』  
『善への思慕』山家正

輕機關銃 更らに追加  
平商業學校では昨年來輕機關銃一臺を購入し學校教練に資する處あつたが更らに本日東京大倉銃砲店に一臺の新規購入を註文した

鳩一番が 喜びの對象  
既報平第二小學校では過般來中庭に大鳥籠を建設中であつたが此程出来上つたので同校海野訓導寄贈の鳩一番を飼育し児童達を喜ばしてゐる

平町人事 回出生  
△北町八九赤羽清氏二女和子  
△二丁目三一米吉氏妻新谷夕(四五)

# 肉弾 國際拳闘大試合

愈々明二十一日午後六時より

聚樂館に於て開催致します

入場料(中學生三十錢に割引 小學生二十錢)に割引

主催 いはき新報社 高木 趨司

外科 醫學博士 渡部 義夫  
小兒科 女 醫 渡部 きい子  
内科 平町田町大通り(電話二七七番) 入院應需 渡部 外科

# 高久病院

院長 醫學士 高久 忠  
副院長 新潟醫學士 赤羽 清  
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄  
内科小兒科 平町田町 電話五二三番  
耳鼻咽喉科 外科花柳病科 レントゲン科

門 專  
産科 婦人科 花柳病科  
◎入院隨意

# 井坂醫院

平町田町 電話五五九番

# 大鳴動を生じ

## 磐炭坑内に地入り 二名生埋めとなる 決死隊の救援絶望視さる

### 原因は……連日の降雨

内郷村磐炭坑高坂第三斜坑内で本廿日午前二時頃廿餘名の坑夫が作業中連日の降雨で地盤がゆるみ土砂混りの幅百尺の岩盤が地入りを生じ大鳴動を發したため坑夫等は先きを争つて避難したが逃げ遅れた坑夫森正幸(三)泉忠治(三)の二名は

逐に土砂の爲め出口を閉ぢられて了ひ生死不明となつたので會社側では直ちに坑夫百餘名を以つて決死救援隊を組織し目下救助作業に全力を盡して居るが同箇所は通氣工合の悪い場所なので救助は絶望視されて居ると

# 怪事件の

## 探査が困難

### 犯人未だ就縛せず

石城郡湯本町寶海青柳やす(ハ)假名が何者にか暴行されての揚句咽喉部、腹部等に海軍ナイフ様の鋭利な刃物を以つて瀕死の

### 重傷を

事件は昨報の如くにて平署にては菊地警部補以下係員が急行探査し本日は安藤刑事部長外刑事が折柄の雨を衝いて八方に

### 捜査の

歩を進めて居るが未だ犯人を検挙するに

## 弱身につけ入り

### 法外の金を取る

シヤボテン恐喝が發覺

内郷村大字宮内町居住皆川齊(三)は本月十日夜栽培中のシヤボテン五箇を何者にか窃取され村内を尋ね廻つて居た處同村字高坂居住坑夫志賀章(三)が前記シヤボテンを姓名不詳の男から買取り愛玩して居るのを發見し代金を支拂はねばお前が盗んだと會社に申告して首にしてやると稱し時價八十錢のシヤボテンを一箇二圓六十五錢宛支拂はしめた事發覺昨十九日恐喝罪として平署に檢擧された

## 山田村の

### 傷害致死

執行猶豫に

本日言渡し既報去る十三日平文部に於いて清田檢事より傷害致死罪として懲役三年を求刑さ

### 明日の天気

今夜も明日も北西の風曇天氣良なる

### 今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間) 獨唱(讚美歌と童謡) 中田羽後、ピアノ伴奏 松尾不二枝
- 後六、二五 基礎佛語講座(十一) 目黒三郎
- 後七、三〇 講演「宗教會議を通じて見た」アメリカの宗教事情 天理教管

### 明日の部

- 前六、三〇 基礎獨語講座(十六) 橋本忠夫
- 前九、一〇 料理献立「ボクチャップ」 河内捨松發表
- 前一〇、三〇 家庭講座「朝の味の味」(終) 榎山梓月
- 後八、〇〇 琵琶「小栗梅」(早川榮陽詞橋一定曲) 鈴木旭美
- 後一、四〇 野球試合實況 東京大學野球聯盟リーグ戦(早稲田—慶應) 神宮球場より中繼

### 明日の部

- 後六、〇〇(子供の時間) ラヂオスケッチ「十月日記」(東龜吉作) 出演 青空子供會
- 後六、二五 講演「飛行機と國防」 陸軍少將 大場彌平
- 後七、三〇 時事解説「洋樂の夕」
- 後八、〇〇 絃樂四重奏「秋に寄す」 東京クワルテット
- 後八、三〇 ビアノ獨奏「夜想曲外」レオシロタ
- 後九、〇〇 管絃樂「古典組曲」日本放送交響樂團 指揮者 山田耕作

### 磐崎産組準備

既報磐崎村では去月中旬より産業組合の設立に全村民を擧げて奔走中であつたが昨十九日午前十時より村役場に於いて第二回設立委員會を開き大和田村長以下五十餘名が協議の結果遅くも十一月末迄には設置する運びに至る決定を見た

### 裁判所だより

- △郡山市壇の越自動車運轉手太田猛(七)が去る四月十一日午後零時三十四分頃双葉郡久之濱町大字末續字坂下地内に於て貨物自動車運轉疾走中列車と衝突助手廣田富雄(三)の頭部其他に重傷を負せ遂に死亡せしめた事件は近日公判開廷する事になつたが之に先立ち關口判事及び清田檢事は来る十一月一日より二日間、亘り吉田書記と共に實地檢證をなし證人として渡邊喜光外四名を訊問すると
- △飯野村役場小使猪狀與之(六)は同村大字上荒川字福ノ内一〇九佐藤泉一(三)が役場の公印を盗用し印鑑證明書を偽造質父の田畑を抵當として金を借用した公文書偽造行使事件の共犯と見られ平檢事局に於て清田檢事の取調べを受けて居たが

## 頭上から大岩石

### 土工重傷を負ふて死亡

内郷村字高坂生れ土工小川忠治(三)は去る十五日双葉郡木戸村字上小埜地内國有林々道開鑿工事に從事中崖から墜落岩石の下敷となつて重傷を負ひ平町上田病院に入院手當中去る十八日死亡した

## 倉庫から

### 擔ぐ處を

發見されて湯本町字八仙居住坑夫佐藤梅之進(五)は昨十九日午後九時頃入山炭礦倉庫に忍入

### 市原醫院

平町田町 電話一四番

- △養鶏手傳 三十以下 尋卒 月七八圓(平窪村某)
- △トラック助手 二十五才 尋卒 月五圓(江名町某)
- △農夫 三十迄 委細面談(高久村某)
- △外交員 四十迄 賣上の一割五分給(平町某)
- △回職を求める方
- △土工夫 二十七才 高卒 給料面談(内郷村某)
- △雜夫 二十八才 尋卒 給料面談(平町某)
- △事務員 二十九才 商卒 給料面談(平町某)
- △職工 二十七才 尋五修 給料面談(赤井村某)

# 銘劍秘刃録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演  
山本英春 畫

第六十九回 血に飢ゆる村正

縫り附く女乞食

次「ナニ仙太郎の事をどうしろといふのだ、アアやつて田地を宛がひ別家さしたら言ひ分はねえはづだ」  
あ「然ういひなさるが仙太郎が此間風邪を冒て寝て居るから私が往つて附いて居てやらうと思つたら打つ捨て置き、傍に附いて居ても死ぬ者は死ぬし生る者は生るといひなすつたぢやアないか、那れも子なら次三郎も子だが然んなら織子いぢめをする者ぢやアない」  
と、何の氣なしにいつたのがツイ胸にさばつたものと見えて、

は大事の所と見えて却々全快いたしません、サア病の熱に浮されるか、仙右衛門の家を絶すのは次郎兵衛だ、私を殺すのは次郎兵衛だ、三年と此の家は立て置かな



次「ナニ織子いぢめとは何だ俺アそんな事をした事はねえ、全体此處の家へ入夫して家の物を滅らしでもしたら何とでもいふが宜い、身上をこやして稼ぎ出した俺を動ともすると入夫だ」といふやアがる、總体氣に入らねえ女だ」  
と云ひ乍ら帳會をして居た次郎兵衛が持つて居た算盤を投り附たのがおあさの頭へ當りました、ウンといつて仰向けに反りました、見て居た家内の者も水よ薬と介抱を致しましたが、

いなど、申しますので、抱瘡の伴はあるし、女房のおあさが狂人同様でございませぬ、次郎兵衛も殆んど惱みました、遂におあさは舌をかんで相果てました、けれども發狂をしたといふ事で葬式は済みました、が濟まないのは次郎兵衛の心の中

是も昔の罪が報つて來たかと思ひまして人には云はねど心で心を責めて居りました所が寶永の四年十二月となつて伴の次三郎は抱瘡の方は宜い鹽梅に膨れか引きました、商人といふものは十二月は就中て出入の忙しい時でございまして次郎兵衛が江戸表へ仕入向きに参りました、本銀町三丁目佐野屋久兵衛が定宿でございませぬ、是に居て華客先きを廻り、萬事の事を済ましたのが極月の二十三日でござ

から渡し場近くになりますと先刻からチラ／＼降つて居たが生憎河原へ掛つてから筑波下しと見えて雪は盛んに降ります、廻し合羽で雪を凌ぎ急ぎ足に参りますると大きな松の脇の所から女「御通りの旦那様一文やつて下さいませ」  
と聲も憐れな女乞食、モウ其の頃は次郎兵衛も年老つて居ります、少々は慈善の心も出ましたと見え

次「上るよ」  
乞「有難うございませぬ」  
次「サア手を出しな」  
と自分は早道と申す、錢入より掴み出した二三十圓通の中へ入れてやりました、女乞食は喜んで一文の錢さへ容易に呉れる人のな

中到大層下すつた旦那様といふ御方であらふかと顔を上げて見る途端に笠の紐がゆるんだから冠り直さうとする次郎兵衛の面を見るより女乞食  
紺「ヤア次郎吉だな」  
と一言いはれて吃驚仰天雲灯りにすかして見れば見覺ある江戸節お紺  
次「おこんか、テ、悪かつた、今お前に茲で會つちやア言譯のしやうがねえ」  
紺「ヤイ人でなしめ汝のおかげで旦那をしくじり、夫ばかりぢやねえ赤阪に居て鼻の障子を飛ばす様な業病に罹つて居る者を夜具布圍まで賣やアがつて其の金を持つて、俺を置き去りにした人で無しめ、幾度死なうと思つたか知れねえが、死んぢやア汝に遇ふ事が出来ねえ、遇つた時にやア云うだけの事を云つて汝の咽喉管へでも食ひついで腹をこもするつりだ」と武者振り

平町南町  
平看護婦會  
電話三〇七番

鹽 節 鮎 出 賣 節 鮎

御華客様本位の弊店で今回「ひな鳥水たき」季節の松茸料理を始めました。何卒御尊來御試食の程御待ち申して居ります。

ひな鳥 水たき  
季節の 松茸料理

玉屋洋品店  
平町四町通電話五六六番

看護婦急派の求めに應じます

住吉屋本店  
平町字紺屋町  
割烹部  
電話一五九番

中村齒科醫院  
平町銀治町七

鹽 節 鮎 出 賣 節 鮎

魚問屋  
店理代平命生本日大最優最  
榮 盛 賀 志  
(三一電)目丁四平